

医学研究実施のお知らせ

埼玉医科大学病院 IRB（臨床研究における倫理審査を行う委員会）の審査を受け、以下の研究を実施しております。

研究の対象となる方（または代理人の方）で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合、又はこの研究に試料や情報を利用することをご了承いただけない場合は、下記【問い合わせ先】へご照会ください。2025年3月31日までにご連絡をお願い致します。この期日を超過した場合、あなたの情報を削除できない可能性が発生します。あらかじめご了承下さい。

【研究課題名】 皮膚電極多局所網膜電図を用いた中心性漿液性網脈絡膜症の黄斑部網膜機能評価

【研究の概要】

研究の目的

中心性漿液性網脈絡膜症（CSC; central serous chorioretinopathy）は、黄斑部を含む漿液性神経感覚網膜剥離を特徴とする疾患です。10万人あたりの平均年間年齢調整発生率は、男性で10人、女性で2人ほどです。ほとんどは3カ月以内に網膜下液が自然吸収されるが、遷延することもあります。慢性的な網膜下液の存在は、網膜障害や光受容体と網膜色素上皮の萎縮を引き起こし、重度の中心視力障害を引き起こす可能性があります。ストレスやステロイド等の関わりが知られており、病因には網膜色素上皮の機能不全と脈絡膜の透過性亢進が指摘されていますが、正確なメカニズムは不明です。CSCの視覚機能障害の評価ツールの一つに、多局所網膜電図（multifocal electroretinogram; mfERG）があります。mfERGは黄斑部を中心として、網膜の電気生理学的機能を短時間に記録する装置であり、客観的な機能評価が可能です。CSCでは、mfERGによって、網膜下液の完全な消失に関わらず、網膜機能には微量な障害が持続する可能性が指摘されています。また、非罹患眼においても、網膜機能に障害が起きる可能性も指摘されています。従来、mfERGは点眼麻酔の後、コンタクトレンズ電極による検査が行われてきました。コンタクトレンズ電極は侵襲や感染のリスクがあり、内眼手術直後や感染性疾患、小児や高齢での使用が難しいことが課題でした。近年、皮膚電極によるmfERGが開発され、コンタクトレンズ電極に比べ侵襲や感染のリスクが少なく、より臨床で活用が期待されています。本研究では皮膚電極を用いたmfERGを使用し、CSCの網膜機能の変化を調べるとともに、改善の指標となる視力や網膜の解剖学的変化とも関連がないかを調べていきます。

研究期間

承認日 ~ 2026年03月31日まで、研究の実施を予定しています。

対象となる方等

研究機関名：埼玉医科大学病院 眼科

調査対象となる期間：2019年01月01日 ~ 2023年08月31日

対象となる患者さん：当院にて調査対象期間中に中心性漿液性網脈絡膜症で治療された患者さん、
または初診で中心性漿液性網脈絡膜症を有した患者さん

対象となる患者さんの数：30例

研究に利用する試料、情報等

年齢、性別、罹病期間、視力、眼圧、視野、mfERG、光干渉断層計（OCT; optical coherence tomography）、

HP 掲載用（単施設研究）

OCT アンギオグラフィー (OCTA; optical coherence tomography angiography)、眼底写真、眼底自発蛍光写真、眼底検査、フルオレセイン・インドシアニンググリーン蛍光、眼底造影検査、血液検査

（該当する場合のみ）他の機関（検査会社等含む）へ試料や情報等を提供する場合
なし

【問い合わせ先（対応時間：平日 9：00 ～ 17：00）】

埼玉医科大学病院 眼科

研究責任者： 篠田 啓 電話：049-276-1295

利用する情報等からは、氏名、住所、電話番号など、個人を特定できる情報は削除致します。

研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用致しません。